

チームを支える!

NAKAJIMA RACINGのスポンサー **三銃士**



インタビューに答えてくださった「スポンサー三銃士」の皆さん

左から

エプソン販売株式会社

お客様サポート課

千野立志さん

PIAA株式会社

マーケティング本部主管補

モータースポーツサポート

三枝英治さん

トタルエナジーズ・ルブリカンツ・

ジャパン株式会社 営業部

オートモーティブ&モーターサイクル

キーアカウントマネージャー

伏見知義さん

今シーズンは例年より1か月も早く開幕したSUPER FORMULA。

予選日から1万人を超えるファンがサーキットに詰めかけ、ピットウォークには長蛇の列ができました。

午前中の走行を終えて、メカニックがマシンのメンテナンスに集中している頃、これから始まるピットウォークに向けて、3人の男たちがきばきと準備を開始しました。ポールパーティーを並べ、ドライバーがファンサービスをするエリアを作り、整理券や最後尾のお知らせボードを用意。やがて、お目当てのドライバーに向かってファンがピット前に集まりだすと、用意した整理券を配り、サイン待ちの列を整えていきます。監督も登場してスポンサーゲストと写真撮影の時間が始まると、カメラを受け取ってシャッターを切る……

これ、我々NAKAJIMA RACINGのスタッフの様子ではありません。長年チームを支えてくださっているスポンサーの方々の様子なのです。いったいつから?どうしてこんなことを? 思い切って突撃インタビューしてみました!

—いつぐらいから、このような形でチームのサポートをされているのですか?

PIAA株式会社 三枝英治さん (以下、三枝): 今みたいピットウォークなどのサポートを全部やるようになったのは10年ぐらい前かな。うちは結構な人数で応援にきていましたから、90年代の頃にはもう、ホスピタリティの椅子の片づけはやっていましたよ。

トタルエナジーズ・ルブリカンツ・ジャパン株式会社 伏見知義さん (以下、伏見): うちでは2009年から合流したんですが、お二人はその前からいろいろ動いていらっしゃいましたね。

エプソン販売株式会社 千野立志さん (以下、千野): 僕は2006年ぐらいからです。もともとNAKAJIMA RACINGを応援しているのはメーカー本体なんですけど、国内の販売会社にその作業が移ってきました。その初年度、NAKAJIMA RACINGのペーパークラブや、いろんなネタをどんどん仕込んでいって。うちの製品で、バッテリーで動く家庭用の小さいプリンターがあるんですが、当時はデジカメがメインでしたから、撮った写真をそのプリンターで、すぐにプリントアウトするよっていうのをやっていました。そうやって本来の担当の裏でいろいろと糸を引いて、自分の仕事にしちゃったって感じ

ですね(笑)

伏見: 僕が2009年に来た時には、お二人ともそんな形で動いていましたけど、みんな別々に行動していましたよね。

三枝: こんな形で大々的にピットウォークをやるのはもう少し後ですからね。ドライバーアピランスもまだなかったです。自分のところのお客さんを連れてきてるときに多少、記念撮影の仕切り役をやったりはしましたが、その程度でした。

伏見: 2010年とか、11年ぐらいですかね。だいたいいつもいるメンバーで、「ああしたほうがいいんじゃない?」とか、「このやり方はいいよね」というアイデアが出始めて、周りがどうやっているのかも探ったりしながら見よう見まねで形が出来上がっていった感じです。整理券を導入したのは昨年からです。

三枝: 並んでもらっていても時間が来て終わってしまったら、ファンにとっては残念ですからね。特にお子様には。

伏見: レースイベントは炎天下や雨のこともありますしね。整理券を導入しようと言ったのも、それが一番の理由でした。

三枝: 選手が出てくる時間は、場合によっては変わってしまったりもしますから、長時間並んでもらっていても申し訳ないし、もしかしらばほかのチームのところにも行けたかもしれない。だったら整理券があったほうがいいんじゃないかということで始めてみたんです。こういうのは、千野さんが得意なんですよ。ただの整理券じゃなくて、カッコいいものを作ってくれる。

—こういうカードって、レースに来た記念にもなりますよね。

千野: ちなみに、整理券の裏には製品のPRもさせてもらっているんですよ。しっかり活用させていただいています。

—チームにとってスポンサーは、もちろんなくてはならない存在ですが、その枠を超えて、もうチームの一員、ファミリーのようなのです。

千野: よくNAKAJIMA RACINGはファミリーって言われますからね。実はこういことをやりましようって言い出したのは別の方なんです。チームがなかなか結果が出せずに本当に苦しいとき、少しでも皆さんが楽しになれば……。そのために自分たちができることをやりましよう。それを形にしていって、こうなりました。スポンサーさんにこんなことをさせられない、むしろやってもらったら困るって言うチームもあると聞いていますが、うちはこの感覚を大事にしようって、やっています。

三枝: 結果、それがファンサービスになるんです。お客さんに嫌な思いをさせてしまうと、ファンじゃなくなっちゃう。時間の都合でドライバーが出てこられないこともありますが、そういうときには「もしかしら回ってこない可能性もあるんですが、それでもよろしければ」とお声がけをしたりね。機械的にやるのは簡単ですが、せっかく並んでくださっているんですから、もっとチームのことを応援してもらえたら、僕らもやりがいがありますよ。

「NAKAJIMA RACINGのスポンサー三銃士」とも呼ばれているお三方。

チームに対する温かい応援の気持ちも、改めて何うことができました(TOT)

応援してくれるファンの皆さま、そしてスポンサーの皆さまの思いをしっかりと受け止めて、今シーズンも精一杯レースに取り組んでいきます。

そして三銃士のお三方、これからよろしくお願ひします!

